



## 米国株とは異なるオーストラリア株の投資魅力とは？

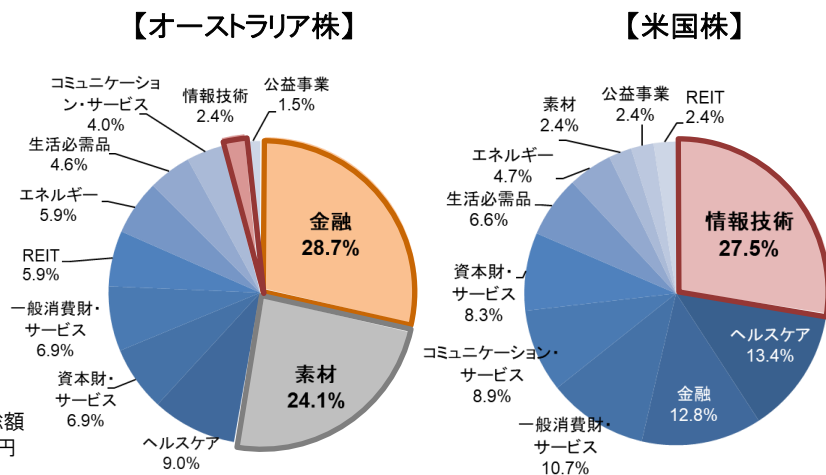
### 配当利回りが相対的に高く、金融・素材を中心とした特色のあるセクター構成

- オーストラリア株式市場は米国や日本と比べて規模は小さいものの、時価総額は約241兆円あり、投資対象としては十分な規模を有しています。また、配当利回りや配当性向は相対的に高い水準であることが特徴です(図1)。
- オーストラリア株は、内需関連の金融セクターや資源関連の素材セクターの比重が大きく、情報技術セクターの比重が大きい米国株との分散効果が期待されます(図2)。

図1: 主要国の株式市場の比較

	時価総額	配当利回り	配当性向
	約241兆円	4.3%	70.8%
	約6,828兆円	1.7%	34.0%
	約861兆円	2.4%	36.6%

図2: オーストラリア株と米国株のセクター構成の比較



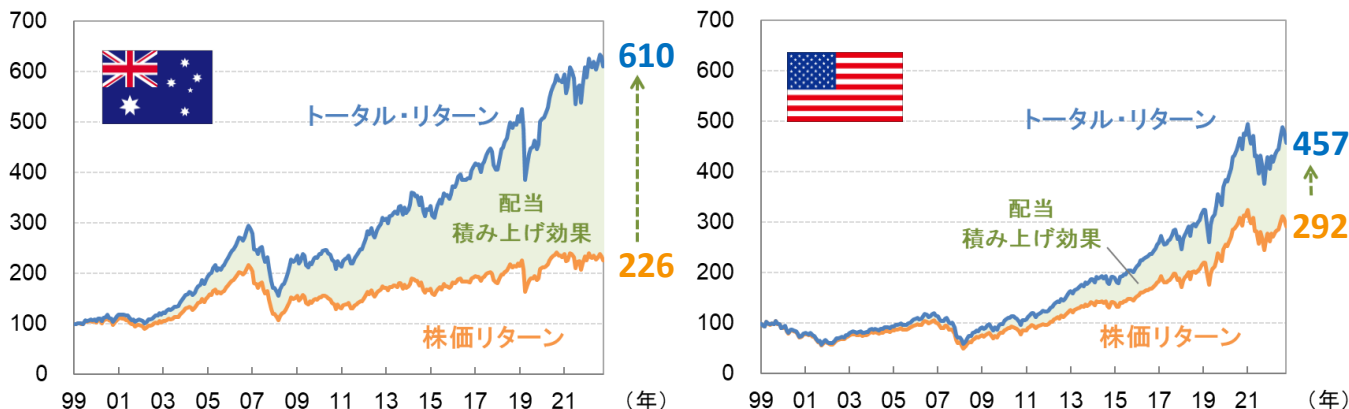
(出所)ブルームバーグ、国際取引所連合、ファクトセット ※時価総額は2023年8月末時点、為替はブルームバーグの1米ドル=145.92円にて円換算、米国はニューヨーク証券取引所とナスダックの合計値 ※配当利回りは2023年9月末時点の予想配当利回り ※配当性向は過去5年(2018年~2022年の平均値) ※オーストラリア株はS&P/ASX200指数、米国株はS&P500指数、日本株は東証株価指数(TOPIX)

(出所)ブルームバーグ ※2023年9月末時点 ※オーストラリア株はS&P/ASX200指数、米国株はS&P500指数

### 配当の積み上げ効果により、オーストラリア株は長期で安定したパフォーマンス

- オーストラリア株はリーマンショックやコロナショックなど様々な危機を乗り越えて、長期的に上昇を続けています。トータル・リターンの内訳を見ると、米国株と比較して配当(インカム)の積み上げ効果によるパフォーマンスへの寄与が大きいことが分かります(図3)。

図3: オーストラリア株と米国株の長期リターンの推移



(出所)ブルームバーグ (期間)1999年12月末~2023年9月末 ※1999年12月末を100として指数化 ※豪州株:S&P/ASX200指数、米国株:S&P500指数

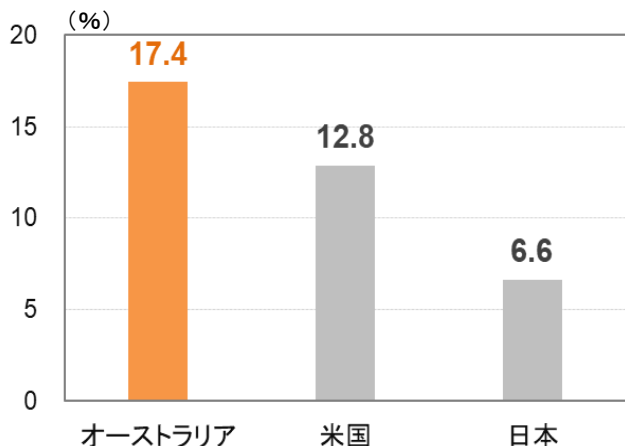
●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。



## オーストラリア企業の高い利益率が配当の源泉に

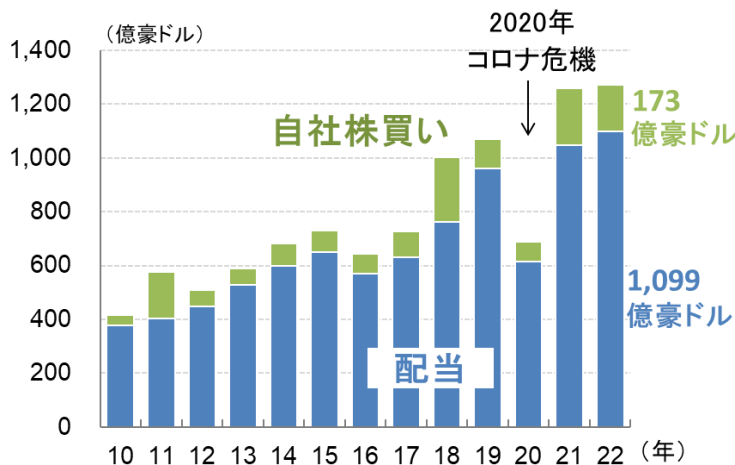
- オーストラリア企業の利益率は17%台と日米の企業と比較して相対的に高い水準です。配当は企業の利益から支払われているため、高い利益率による豊富なキャッシュフローは、オーストラリア株式市場の高い配当利回りに繋がっていると考えられます(図4)。
- オーストラリア企業は、「配当による株主還元策」を特に重視する傾向があります。配当総額はコロナ危機からの底堅い回復を維持しています(図5)。

図4: 主要国企業の利益率(2022年末時点)



(出所)ブルームバーグ ※2022年末時点 ※利益率はMSCI各国指数の各年末時点における売上高当期純利益率を使用 ※MSCIが算出する指数は、MSCI Inc.の財産であり、その著作権はMSCI Inc.に帰属します。

図5: オーストラリア企業の株主還元策



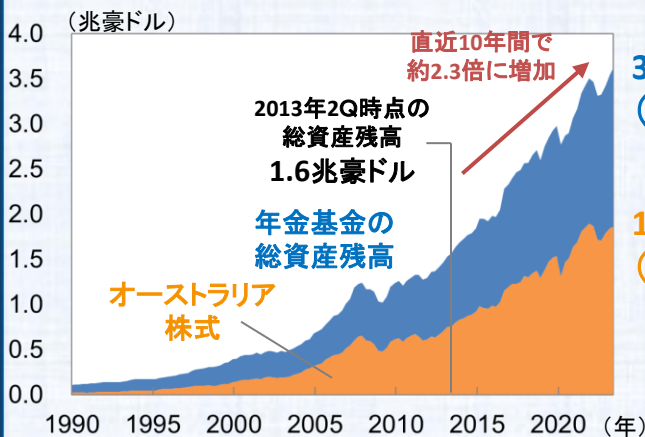
(出所)ファクトセット (期間)2010年~2022年 ※対象はS&P/ASX200指数採用銘柄。

## TOPIC

### 年金基金によるオーストラリア株式への資金流入が拡大

オーストラリア年金基金(スーパーアニュエーション)の総資産残高は、人口増加や拠出負担率の引き上げ等により、直近10年間で約2.3倍まで増加しています。スーパーアニュエーションの資産構成を見ると、51.4%がオーストラリア株式となっており、こうした動きはオーストラリア株式相場の下支え要因になることが期待されます。

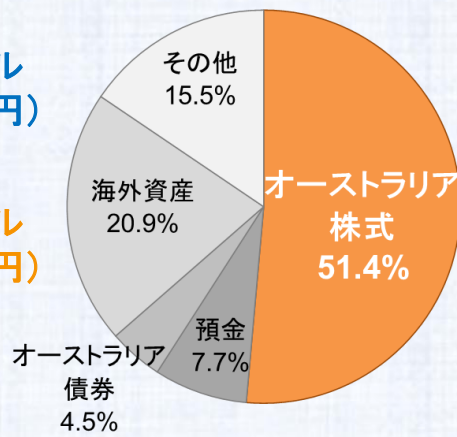
オーストラリア年金基金の総資産残高の実績



(出所)豪州政府統計局 (期間)1990年1Q~2023年2Q

※為替はブルームバーグの2023年6月末 1豪ドル=96.15円にて円換算

オーストラリア年金基金の資産別構成比



(出所)豪州政府統計局、2023年6月末時点

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したもので、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第417号)はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。